



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2022年10月9日(日) 9:30~12:00(曇り)

参加者 一般:5名

指導員:3名

テーマ 赤トンボを探そう

アキアカネが産卵のため山から平地に戻ってくる季節になりました。そこで、今回のテーマはアカトンボ探しです。

この観察会のフィールドでこれまで見られたアカトンボは、ナツアカネ、アキアカネ、ノシメトンボ、コノシメトンボ、マユタテアカネ、リスアカネ、ミヤマアカネの7種です。数年前まではナツアカネやマユタテアカネは普通に見られるアカトンボでしたが、このところ減少気味で、見かけることが少なくなりました。

アキアカネは葉の落ちた木の枝の先によく止まっているので、そのあたりを探しました。桜の木などで見られ、1本の木に数頭が止まっているところもありました。

マユタテアカネは林縁部などで見ることが多いのですが、この日は川岸の柳林脇の水溜まり近くに生えた草の茎に成熟して赤くなったみが止まっていた。捕獲して尾部の先端が反っていることを確認しました。

先週の大野極楽寺公園のイベントで、ノシメトンボが何頭も見られたと聞いていたので、大野極楽寺公園野鳥園の周囲のフェンス付近を注意深く探しましたが、この日は見つけれませんでした。

結局、この日の観察会で見られたアカトンボはアキアカネとマユタテアカネの2種だけでした。

途中で、アミガサハゴロモの仲間を見つけました。昨年から外来種をよく見ていましたが、この日のものは、翅の白斑の形状から在来種のように見えました。デジカメ撮影した画像を確認したところ翅に黄緑色の粉があり、在来種の特徴と合致しました。在来種を見るのは久しぶりです。

実りの秋で、川原のエノキの木に絡んだアケビの実が熟していました。食べたことがないという参加者がみえましたので、味覚に訴える観察ということで、アケビ、ムクノキ、ヌルデの実を体験してもらいました。

(報告: 齋竹)

<その他観察できたもの>

昆虫: シオカラトンボ、アオモンイトトンボ、オオアオイトトンボ、キタキチョウ、ヒメジャノメ、ウラナミシジミ、ツバメシジミ、オナガアゲハ、イチモンジセセリ、オオチャバネセセリ、チャバネセセリ、ホシホウジャク、オオウンモンクチバ、キマダラカメムシ、サトクダマキモドキ、クサキリ、エンマコオロギ(声)

鳥: ヒヨドリ、キジバト、モズ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ウグイス(地鳴き)

花: セイタカアワダチソウ、クワイモ、キダチコンギク、ヒメジョオン、コセンダングサ、アレチハナガサ、ネナシカズラ、メリケンムグラ、アレチヌスビトハギ、メドハギ、ヤブマメ、キンミズヒキ、ミスヒキ、ヒガンバナ



(川岸でトンボの仲間を観察)



枝の先のアキアカネ



尾部先端が反るマユタテアカネの♂



在来のアミガサハゴロモ



熟して割れたアケビの実